

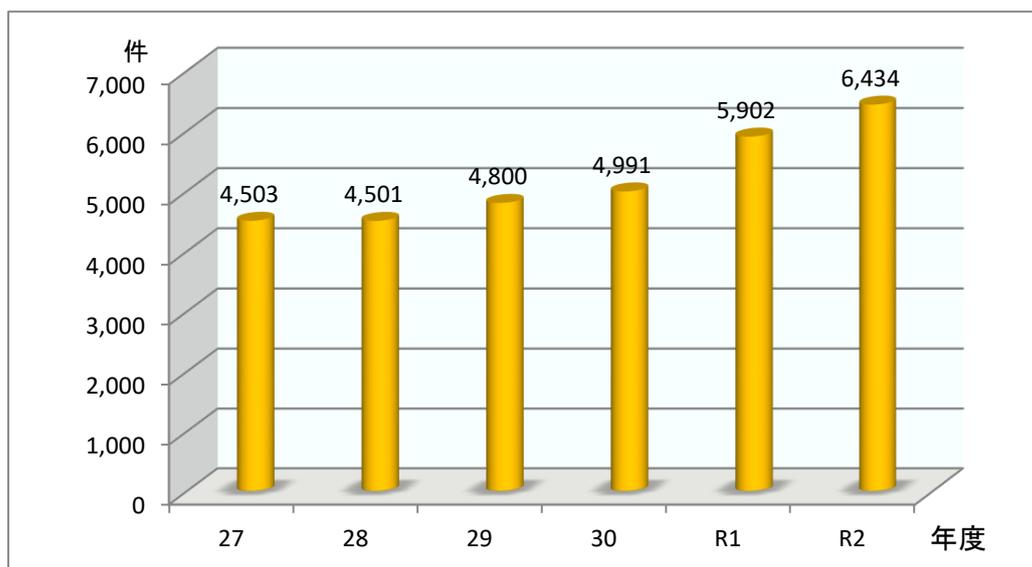
20 外来でがん化学療法を行った延べ患者数

解説

かつて入院が必要であった化学療法の多くが、外来で行えるようになりつつあります。これにより、通常に近い日常生活を送りながら治療を受けることができるようになり、患者のQOLが向上します。

一方、病棟における化学療法とは異なり、外来で適切に化学療法を行うには、担当の医師、看護師、薬剤師等の人的配置も含め、相当の体制整備が必要です。外来において化学療法を行える体制やスタッフ、施設の充実度を評価します。

実績



自己点検評価

外来がん化学療法実施の患者数は年々着実に増えてきています。外来化学療法室では、毎日カンファレンスを開催し、当日実施する患者情報を共有し、注意点の確認をおこなっています。また、月に一回定例会を開催し、現場における細かな問題点と改善策を話し合い、さらに、月一回の化学療法委員会で、関連する全科の医師及び医療スタッフとで情報共有と検討事項の会議を実践しております。患者人数の増加のみならず、実施における安全性、諸問題に対する改善策を積み上げて、質の充実も同時に行っております。

定義

医科診療報酬点数表における、「第6部注射通則6 外来化学療法加算」の算定件数。レセプト算定ベースで算出しています。

算式

実数